

限局性肺癌に対する重粒子線治療の概要

プロトコール番号:1807-1

治療プロトコール	限局性肺癌に対する重粒子線治療 1807-1
対象	転移および隣接臓器浸潤のない肺癌
治療方法	<p>a. 末梢型 <u>cT1-T2aN0</u>: 総線量 54.0-64.0Gy(RBE)/4 回、50.0 Gy(RBE)/1 回 * 上記分割回数が困難な症例: 64.0-72.0Gy(RBE)/12-16 回 <u>cT2b-T3N0</u>: 総線量 64.0-72.0Gy(RBE)/12-16 回</p> <p>b. 中枢型 気管支壁外腫瘍形成型: 総線量 68.4Gy(RBE)/12 回 気管支壁内表層浸潤型: 総線量 54.0Gy(RBE)/9 回</p>
適格条件	<ol style="list-style-type: none"> 生検(細胞診、組織診)または画像所見から診断された肺癌 画像所見による診断は以下の基準を用いる ① 原発性肺癌として矛盾しない画像的特徴を有していること ② 経過で陰影の増大が確認できること、または PET 検査で悪性を示唆する所見が得られていること 画像診断で評価可能病変があり、TNM 分類(UICC 第 8 版)により、臨床病期 Tis, T1-T4N0 の原発性肺癌(隣接臓器浸潤による T4 を除く) Performance Status(ECOG 基準) 0-2 手術不能もしくは手術拒否例 Room air で SpO2 90%以上または PaO2 60torr(mmHg)以上、及び呼吸機能検査で一秒量 700ml 以上 本人に病名・病態の告知がなされており、患者本人から文書による同意が得られている カンサーボードで、重粒子線治療の適応ありと判断されている
不適格条件	<ol style="list-style-type: none"> 重篤な合併症(難治性感染症または重篤な精神病など)を有する 当該照射部位への放射線治療の既往がある 重粒子線治療前 4 週間以内に化学療法、2 週間以内に分子標的薬の既往がある 多発肺癌または重複癌を伴っており、根治療法が困難または既治療により 6 カ月以上の生存が困難と判断される場合 CT 上で明らかな間質性肺炎を有する 予後が 6 か月に満たないと推定される 妊娠中あるいはその可能性がある 医学的、心理学的または他の要因により不適格と判断された場合
治療の種類	先進医療